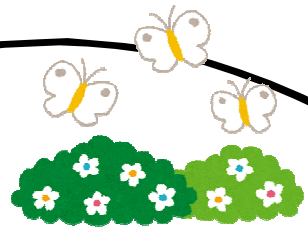


母の日
2018年は
(5月13日)



子ども歳時記

春の
草花遊び



5月の第2日曜日は母の日です。1907年、アメリカのアンナ・ジャービスという女性が、地域の医療・衛生環境を改善する活動「母の仕事の日」に注力するも亡くなった母を偲び、教会で参列者に白いカーネーションを配ったのが始まりです。この話が多くの感動を呼び、日本でも母親や家族への愛に感謝する日となりました。今年、お母さんの好きなフルーツを使って花束のようなサンドイッチを作ってみませんか？①オリーブオイルを塗った食パンにサニーレタス、ハム、チーズなどを載せて花束のようにクルッと巻きピックで留める、②中にブルーベリー、黄桃、ウズラ卵、プチトマトなど好きなものを入れて完成！

春はやさしい日差しが降り注ぎ、草花は色鮮やかで、とてもきれいです。外に出て、草花遊びを楽しみましょう。カラスノエンドウの実では笛を、シロツメクサやタンポポでは腕輪を、フキやサトイモなどの葉では大小さまざまなお面を作ることができます。葉を唇にあてて強く吹く草笛では、葉の種類による音の違いを楽しめます。オオバコやカヤツリグサなどの茎では引っ張り相撲ができますよ。似た花探しでは、マメ科の花が春にたくさん咲くので、カラスノエンドウ、レンゲソウ、シロツメクサなど探してみましょう。花が咲いた後、実ができるところまで観察できるとよいですね。

住環境コーディネーター
引地春美

子育て親育ちエッセンス

子育てサークル「やんちゃんこ」
代表 濱田 英世

4月になると、幼稚園・保育所・学校などは新年度に入り、また新しい一年のサイクルが始まります。

進級・進学を機に、「新しい世界に飛び込み、頑張りましょう！」「いろいろなことに挑戦しよう！」「失敗を恐れずに勇気を持ってやってみよう！」などという言葉が飛び交います。もちろん素晴らしいことです。子どもたちは計り知れない力を持っていますし、その未来には無限の可能性を秘めています。

ただ、その言葉が無責任に使うことで、反対に子どもたちにプレッシャーをかけたり、期待をかけ過ぎたりして、追い詰めてしまうケースがあるかもしれないことを、大人は気付いておかねばなりません。もちろん誰もが、子どもたちにやる気を持たせるために、力をつけてほしいがために言うのです。しかし、あまりにも無造作に言い続けることで子どもの心を傷つけてしまった例を、私は何度も見えています。

大人は期待を込めるが故に言ってしまう。「どうしてこんな点を取ったの？」—誰だって悪い点を取りたくて取るわけではないですよね。そんなときは、「どこができなかったのかな？やり直したらできたかな？」と声をかけ、分からなかったことを責めるより、次からできるようになればよいだけのことです。「みんなはできているのに、どうしてあなたはできないの？」—他人と比べられる気持ちはどうでしょう？それよりも、わが子自身の「前」と比べて「今」できるようになったことを褒めてあげることが大切です。「いつも間違えているよね」—子どもは思い込みで育ちます。いつもできない自分、いつも叱られる自分…この気持ちが積もっていくと、自信が持てない、どうしたらよいか分からない、自己肯定感の低い子ども

になってしまいます。そのまま思春期に入ると「自分はダメな人間なのだ」、「生きていても仕方がない」といった自尊心を持たない人間に育ち、ともすれば悲しい結末が待っているとも限りません。

どうか、子どもたちの結果を批評するのではなく、その過程を見てあげてください。何とかできるようになると練習している姿や、くり返している様子、その積み重ねが結果につながるのです。オリンピックでも金メダルだけに価値があり4位になった人は全否定かということ、決してそんなことはありません。結果より過程が大切だということ、それはいつか子どもにきちんと伝えたい事柄です。

子どもたちは小さな身体いっぱい物事を受け止め、一日一日学び、感じ、成長しています。その元気いっぱい子どもたちが、なお一層キラキラと輝くように、大人も努力しなければなりません。

それは、いつも子どもをしっかりと見てあげること。子どもの心に寄り添って、一緒に笑ったり、悩んだり、考えたり、困ったりしてあげること。その反応を、子どもはよく見えています。いい加減に返事をしているのか、本当に褒めてくれているのか、心から喜んでいるのか、怒っているのかを、不思議なことに子どもたちは見抜いています。

この一年も楽しく素敵に年でありますように…大きな成長の一年でありますように…そのためには私たち大人も子どもと一緒に新しい出来事や生活を大いに楽しんでいきたいものですね。

